

女子 長崎商3位「やり切れた」

ソフトボール

【女子】

▽準決勝

山梨学院(山梨)

長崎商(長崎)

(山) 向山・田口

00000003
05

(長) 後田・松尾愛
▽本塁打 田口(山)

▽決勝

山梨学院(山梨)

厚木商(神奈川)

(厚木商は10年ぶり8度目の優勝)

00010000
30000000
X 31

若い力

堂々の戦いぶりだった。ソフトボール女子の長崎商は準決勝で山梨学院

院に0-5で敗れたが、昨夏のコメダ(4校同時優勝)に続いて銅メダルを獲得した。溝口監督は「準決勝は私の采配ミス。選手たちは新しい歴史をつくってくれた」と健闘をたたえた。

天候不良で準決勝以降が中止となった昨夏。初優勝を喜ひながらも、最終日の景色を見ることができなかった。その歯がゆさを知る現メンバーはまた、同じ位置まで勝ち上がってきた。

エース後田がチームをけん引した。準決勝まで4試合計20イニングを11安打1失点の好投。磨いてきたチェンジアップを生かしながら、凡打の

エース後田 チームけん引

山を築いた。村子、黒川の二遊間を軸にしたバックも堅守で支えた。

待ち望んだ準決勝の舞台。後田は一回に2ランを浴びたが「2点ならまだ戦える」と慌てなかった。中堅渡辺の3度の好捕をはじめ、バックも懸命に守った。最終回に追加点を許しても「内容は悪くなかったので代えなかった」(溝口監督)。エースは最後まで104球を投げ抜いた。春の全国選抜大会は県大会で敗れて出場できなかった。そこからチームはいし上がり、夏は全国でメダルをつかんだ。主将の松尾愛は「準決勝は未知の世界だったけど、やり切れた」と充実した表情で振り返り、慣れ親しんだ長崎商のユニホームに別れを告げた。(則行優志)



【ソフトボール女子準決勝 山梨学院 長崎商】粘り強く7回を投げ抜いた長崎商のエース後田

高知市、高知県立春野総合運動公園運動広場